



組合

四十周年



岩手県採石工業組合が創立四十周年を迎え、十月六日、ホテルメトロポリタンにおいて記念式典が盛大に開催されました。当組合の最大の特徴は、砕石跡地整理のために組合員が出資し、万が一、跡地整理ができない場合は組合が施工するという全国でも類のない制度で、円滑な採取認可を可能にし、組合員企業の安定に寄与してきたことにあります。

採石業は、一度着手すると長い期間の事業となることから、組合の安定と継続は欠かすことができません。また、公災害の防止、労働安全の推進、業界のイメージアップ等、組合が果たす役割はますます重要となってくるでしょう。組合の発展を願うものです。

フォーラム2015

日本砕石協会主催による砕石フォーラム2015が盛岡で開催されました。地方開催ということで参加者が少ないのではと心配されましたが、全国から400人を超える方々に参加していただき、二日間にわたり研究発表や事例報告が行われました。

岩手県からは3名の発表者があり、開催県として面目躍如というところです。今回は砕砂の製造や管理についての発表が多く、全国的に細骨材が天然物から砕砂へ移行してきているのだと感じました。発表者も若い人が多く、業界の未来は明るいのだと元気づけられました。1日目の発表の終了後、親睦会が開催され、中田理事長の歓迎のあいさつに続き、全国の方々と情報交換することができました。



新社長の履歴書⑦ (30歳頃)



前回までは石材の工期の短縮のお話でしたが、今回は墓石をどう売るかについて新たなチャレンジをした話です。

二戸地域には大手石材業者があり「フクタ石材部」という看板はほとんど知られておりませんでした。かといって今のように新聞の織り込みに、「墓石売出し!」のようなチラシが入れられるよう時代ではなく、お寺さんとのつながりや、地域世話役による紹介などで墓石は売れていくのでした。

しかし、ここの牙城に食い込んでいかなければなりません。名も信用もあまりない中での営業は、やみくもに家を訪問しても早々売れるものではありません。新聞の慶弔欄は大きな情報ですが、亡くなったところに行くと墓石要りませんか?とはできないですよ。もちろんお寺さん廻りをして少しずつですが認知度も上げていきましたがそれでも中々売れるものではなかったですね・・・(続く)

訃報

石材部の荒谷信男さんが10月7日に亡くなりました。お盆明けから入院し、一時は退院して自宅で療養していると聞き、復帰できるのではと希望を持っていましたが、薬石効なく、あまりにも早いお別れとなってしまいました。ご冥福をお祈りいたします。



編集後記

先日、車の窓ガラスが凍結していました(+o+) そろそろ怖い冬が来ますね(><') さて、色々な事情で出荷が重なり、出荷数量の応対等お客様にはご迷惑おかけしております。なるべく要望に近いようお答えしていきたいと頑張りますので、ご理解の程お願いいたします。



～感 度～

砕石フォーラム会場のあるメーカーのブースに、簡単な日常会話や応接が出来る会話ロボットが登場した。臭覚や味覚は人間に及ばないにしても、『見る』『聴く』『触る』ことから得られる情報は、人間並みであろう。いずれ砕石現場にも、こうしたセンサー技術が導入されてくるだろう。

しかし、正確な情報から正しい判断へと繋がるプロセスを機械自身で作ることは至難であろう。このロボット君も時折トンチンカンなことを言って笑わせる。だが、現場では笑って済まないことがあるから面倒だ。人間は、意識せずに顔色をうかがったり、空気を読んだりしながら瞬間的に反応している。ロボットに追い越されないように判断の感度を上げる努力をする必要がある。



母は強し

東京出張の折、なにげなく歩道に停めてある自転車に目が止まった。前には1~2歳、後ろには4~5歳くらいの子供を乗せるためのシートが付いている。すごい。3人乗りではないか・・・。この自転車を操り送り迎えをする、お母さんの姿を思い浮かべると改めていつの時代も母は強いと思う。

